

人

二年
画数 2
筆順 ノ 入
オン ニユウ
クン はいりる・いりれるりる



↓ 人 ↓ 入 ↓ 入 ↓ 入

成り立ち

「出(年37)」が「つちのそとへ」でていることをあらわしているのにたいして、「入」は、「つちのなかに」はいつていることをあらわした字です。

「はいる」といういみの字ですが、「お金」が「はいる」は「お金」を「いれる」ことでもありますから「いれる」というよみかたもできます。

また、「はいり」「口」を「いりぐち」といいますように、「入る」は「入る」ともよめます。

「家の入口の形を象った字と考えられるが、一年生には、「出」と「入」とを対にして、このように解した方が分かりやすいであろう。」

使い方

▽まちがえて出口から「入」って、「入り口」から出ました。
▽「入場けん」がなかったので「入」れてもらえませんでした。

熟語例

- ▽入用(入り用。ひつようなこと。)
- ▽入門(「先生のいえの門から入る」ことで「でし入りする」こと。また、「手びき書」のいみにもつかわれます。)
- ▽入場(会場などの場内に入る。)
- ▽入室(「室」は「へや」。へやに入ること。)
- ▽入梅(「梅雨に入る」こと。六月ごろふりつづく雨を「梅雨」または「梅雨」といいます。)
- ▽入学(学校に入ること。)
- ▽侵入(ほかのりようぶんを侵して入りこむこと。)
- ▽輸入(「輸」は「船ではこぶ」こと。がいこくからしなものを「かい入れる」こと。)
- ▽入試(「入学試験」のこと。せいせきを試験して、入学する人をきめる、その「試験」のこと。)

年

二年
画数 6
筆順 ノ 年
オン ネン
クン とし

成り立ち

↓ 禾 ↓ 禾 ↓ 禾 ↓ 禾 ↓ 年

「いね」のかたちをあらわした「禾」と「千」とをくみあわせてつくった字です。「千」の音には「稔(いねが稔ること)」とおなじ音がありますので、「年」は、「稔」とおなじいみにつかわれました。

「いねが稔ってつぎに稔るまでの「きかん」のことを「一稔」といい、また「一年」ともいいました。それで「とし」といういみにつかわれるようになりました。

使い方

- ▽一年は三百六十五日あります。
- ▽年のはじめをお正月といって、みんなでお祝いします。

熟語例

- ▽年始(年の始め。また、年の始めのおいらいのこと。「お年始にでかける」などにつかいます。)
- ▽年賀(お正月のおいらい。年の始めに人におくるものなどをよぶことば。年の始めに人におくるはがきを、年賀状といいます。)
- ▽年末(年のおわり。年の末。大そうじなどをして、たいへんいそがしいとき。)
- ▽年少(年が少くないこと。わかいこと。「年少者はほごしやといっしよでなければ、にゆうじょうできません」などという、ちゆういがきがありますね。)
- ▽豊年(おこめなどが豊かにとれた年。「豊年満作」というのもおなじいみ。むかしから、おひやくしようさんたちは、豊年をいのつてきました。◎「凶年」)
- ▽年輪(年ごとにできる、木のきりくちにみられる輪。一年に一つずつふえるので、木の年がわかります。)